



その他、最近資源が減っていると感じるイセエビ類（カノコイセエビ、シマイセエビ等）も素潜りや磯建網、カゴ網等で漁獲している。販売先は島内の他、最近ではインターネットを活用して島外へ出荷する人もいる。

また、観光や工事関係者及び大物狙いの釣り客などが多い地域のため、漁業者の中には民宿や遊漁船業も兼ねる、いわゆる海業を営む漁業者も多い。

### 3 私が平島で漁業をしようと思った動機

私は福岡に住んでいた子供のころ、近所の遊漁船を所有している方から釣りに誘われ、釣りが好きになった。その後、ずっと釣りが趣味となり、大学生になってからは大物釣りに特に引かれるようになった。全国的に大物釣りでは十島村＝トカラ列島は有名で、特にGTと呼ばれるロウニンアジ釣りには、全国から大物狙いの釣り好きが集まって来る。私も学生時代にGT狙いでトカラを訪れ、平島で釣り宿を兼ねた民宿を経営する漁業兼釣り案内で複合経営を営む方と親しくなり、幾度となくお世話になった。そこで判ったことは、平島にはGT等の遊漁対象種以外の水産資源も豊富なことである。港を少し出たところで大漁したり、高級魚が簡単に釣れたりもする。時に民宿の手伝いをしながら釣り三昧の日々を過ごすことができ、大学を卒業し、東京に就職した後も、平島での釣り三昧の日々が忘れられず、この資源が豊富な平島で漁師になれないかと考えるようになった。

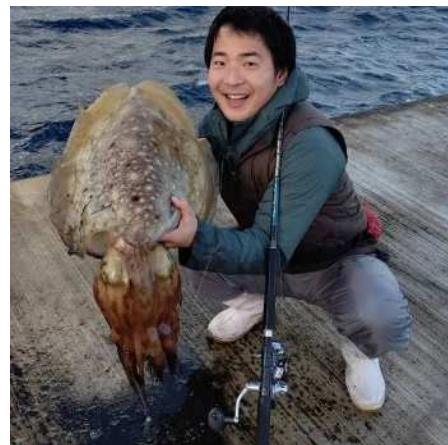


写真1 学生時代：平島にて

いろいろ調べてみると、村の移住・定住対策が充実していて、国や県、県漁連の後継者育成事業などをうまく利用すれば移住が可能と判断した。そこで、定住を前提に次に述べるような各種研修事業に応募し、これらを活用させていただいた。こうして私は、漁師への道の第一歩を踏み出すことになった。

### 4 漁業研修の状況

漁業研修については、初めに鹿児島県主催の「かごしま漁業学校」短期研修を受けた。台風での途中中断を挟み、平成30年8月7日から9月1日の間の計1週間、平島のこれまでお世話になってきた複合経営を営む漁業者の下で海上で実地の研修を行い、引き続き、県や県漁連、全国漁業就業者確保育成センター等による4ヶ月の「中期研修」により、平成30年9月から12月まで指導を受けた。この約5ヶ月の間、指導者から瀬物一本釣りや曳き縄などの釣り方や漁場、潮の見方や潮による漁場の選択方法、さらに台風接近時の船の管理方法など、平島で漁業を行う上で基本的な事を教えていただいた。まだまだ勉強することが沢山あることが判ったが、釣りが得意であったこと、資源が豊富なことなど、平島で漁業中心で生活する自信の様なものも芽生

えて来た。

そこで、本格的に漁業で自活するため、3ヶ年の「長期研修」を受けることを決意した。同時に指導者からの「漁業だけで生活するのは厳しい」という助言をいただき、夫婦で検討したところ漁業単独ではなく、遊漁案内や民宿経営などとの複合経営を目指すこととした。

長期研修は平成31年1月から短期、中期研修と同じ指導者の下で研修を受けたが、その指導者が体調を崩されたため、令和2年6月に研修を一端休止することになった。それまで、普通なら教えてもらえないような釣りのコツを懇切丁寧に教えていただいたり、島で生活する上での様々なしきたりなどを指導していただき、本当に感謝している。

指導者の体調回復が遅れたため、同じ平島の漁業者に指導者を変更して令和3年1月から長期研修を再開した。研修指導者が変わったことで、同じ平島で同じような魚を狙っても、釣り方、漁場の選び方、潮の読み方が違っていた。その内容を具体的に説明するのは難しいが、指導者が変わったことは偶然とはいえ、この2人の方法を共に学ぶことが出来たのは、私の漁業経営開始から定着に至る貴重な経験となり、今後の糧になると思っている。また、研修の終盤には指導者と合わせて1日80Kgも瀬物を漁獲することができ、自活する自信も大きくなった。

**表1 研修期間中2人での日の最大漁獲  
(金額は税抜き額)**

| 魚種     | 漁獲重量<br>(Kg) | 平均単価<br>(円/Kg) | 金額<br>(円) |
|--------|--------------|----------------|-----------|
| チビキ    | 54           | 1,791          | 96,692    |
| ヒメフェダイ | 27           | 962            | 25,877    |
| その他    | 3            | 792            | 2,060     |
| 計      | 84           |                | 124,629   |



**写真2 長期研修の状況**



**写真3 漁獲したチビキ**

## 5 漁業経営の開始

研修休止の期間、複合経営の始動に向けて村の支援をはじめとして情報収集に努めた結果、令和3年に知人から安く小型遊漁船を譲っていただける話があり、漁船導入にあたっての村の無利子貸付や設備整備の補助金を活用したことで負担も少なく入手することができた。純粋な漁船の型ではないものの“SEA CRAFT”と名付け、自分が



**写真4 所有漁船 SEA CRAFT**

得意とするイカ釣りや近場での釣りに活用している。

また、民宿についても、村の奨励金や無利子貸付、国の創業支援を受けられる事が判り、それを活用して令和3年3月に客室6部屋の民宿「海の宿しらさか」をオープンした。

令和4年8月に長期研修を終え、同年9月からは、“SEA CRAFT”と民宿で独立して複合経営を開始した。まだまだ新米漁業者で、燃料費など経費が大変なため、民宿に必要な分だけを釣って早々と戻ってくる状況下ではあるが、少しずつ今後の展開方法が見えてきた。



写真5 海の宿 しらさか



写真6 食事一例

## 6 今後について

今後は、多少の荒天でも瀬物一本釣りができるような、本格的漁船の購入が一番の課題だ。これにより釣り客案内も行い、今の新鮮な魚を提供する民宿から、釣り宿兼用の民宿に転換を図りたいと思っている。

また、平島には村が整備した水産加工場がある。しばらく休止していたが、村が機器等の修理、改善を行い、加工場担当として地域おこし協力隊員を招いて令和4年7月から事業を再開した。現在は、鮮度の関係で本土出荷が不利になるカマスサワラやカツオ、本土で値段がしない小型の瀬物等を小売り用の刺身や冊にして急速凍結し、島内の高齢者や時化が続いた時の民宿等へ販売し、喜ばれている。我々漁業者もフェリーの欠航を気にしないで操業でき、運賃負けする魚が収入になるなど、加工場の運営がうまくいけば本当に助かると考えている。私は、形だけではあるが加工組合の組合長をしているものの、まだ漁業と民宿の複合経営を軌道に乗せるのに精一杯で組合長として十分な仕事できていない。余裕ができれば、少しずつ関わりを増やしていきたい。

令和2年度からは、鮮度面での不利な状況に対応するために、村と漁業集落が連携して国の離島漁業再生支援交付金を活用したフェダイ類などの活魚出荷に取り組んでいる。村営フェリーの協力で定期便に活魚水槽を積み込み、航海中は海水を掛け流して鹿児島市内まで運ぶ方法だ。その結果、フェダイ類はキロ単価1万円を超えることもあるなど魅力的である。深海に棲む瀬物については、活魚出荷が出来ないが、将来は自分もこのフェダイ類の活魚出荷にも挑戦してみたい。



写真7 活魚水槽のフェリーへの積み込みとフェリー内での状況

表2 十島村漁協全体での活魚出荷の量と金額、単価の状況（金額は税抜き額）

|       | 量 (Kg) | 金額 (千円) | 平均単価 (円/Kg) | 単価幅 (円/Kg) | 出荷延回数 |
|-------|--------|---------|-------------|------------|-------|
| 令和2年度 | 404.1  | 1,006   | 2,488       | 500～9,500  | 16    |
| 令和3年度 | 445.8  | 1,007   | 2,259       | 500～12,000 | 15    |
| 令和4年度 | 230.0  | 767     | 3,335       | 300～10,000 | 9     |

※ 令和4年度は11月時点

また、十島村は沿岸資源に重要と言われている海藻やサンゴが少なく、コブシメが岩のすき間などに産卵していることもあるため、令和3年度に同じく離島漁業再生支援交付金でコブシメ産卵礁（イカ柴）を設置した。研修期間中、私もこの取組に参画したが、波浪による流失が多いなど、まだまだ改良すべき点が多いと考えている。今後も改良を加えながら取組を継続して、沿岸資源の増加にも取り組んでいきたいと考えている。

また、最近では、私の後輩が地域おこし協力隊員として島に移住して来た。この後輩は、将来、私が受けた後継者対策事業の研修を受けて、漁業で生活したいと強く望んでいる。経験を活かし、こうした人への指導・協力もして行きたい。

## 7 まとめ

平島を始めとするトカラ列島は都会の方から見れば不便な所かも知れないが、少なくとも漁業をする上では魅力いっぱいのところである。研修を受け始めた時は、来たばかりの若者に漁業の細かいコツを親切に教えていただけるとは思ってなかったが、平島の私の2人の指導者は包み隠さず教えてくれた。国や県などの研修制度があるお蔭と思うが、平島の人にも感謝で一杯で、どちらも本当にありがたく思っている。

また、鮮魚の鹿児島への出荷経費についても国や村の補助があり、実質的に経費の2～3割の自己負担で済んでいる。さらに、通常の生活についても村の充実した支援があり、各家にインターネットの高速回線が通じていて、必要な物はインターネットサイトから取り寄せれば送料も掛らないところもある。また、村内の学校は生徒数に比べ先生の数も多く、きめ細やかな指導が期待出来る。事実、都会からの山海留学生

として転校して来る子供が多数いる。

島ならではの人と人とのしがらみもあるが、それでも十島村は良いところで、移住して良かったと思っている。

今後は、先に述べたように漁船を大型化して遊漁船業を始めたいと考えている。そして、漁業、民宿、そして遊漁船業との複合経営により、後輩や先輩漁業者を巻き込んで海業を推進していきたい。